

道小 第4回理事研修会
組織の在り方検討委員会 報告を受けて

札幌地区
渡辺 元 副会長より意見



札幌市として

- ①道小、全連小に所属し、情報収集や情報発信の場を確保していく。
- ①札幌市小学校長会は、本道の教育向上のために、また、全連小が都道府県単位での加入が原則なので、道小との連携協力を維持する。
- ③平成30年には、第70回 全連小研究協議会北海道大会が開催される。その成功のために、その一翼を担っていく。

この3点については揺らぐものではない。これをベースに議論をしている。

ただ、今後の派遣役員や分担金等については、道小の組織の在り方検討委員会の考えを受けて、平成28年度中に方向性を示したい。会費の値上げに関しては、今まで、道小のこれまでの組織、活動の効率化への取組、更には、今後の活動継続のための予算確保への取組について大きく評価しているところである。会費の値上げがなければ活動を継続していけない窮状も理解できる。その中で、札幌市の校長会も道小の一員として税源移譲にともなう対策活動費をお願いしている。ご理解をお願いする。

9月の第3回の理事研修会の組織の在り方検討委員会報告を受けて、札幌市小学校長会の会員から出た意見がたくさんある。率直に紹介したい。

- 北海道中学校長会と札幌市中学校長会のような関係を、北海道小学校長会と札幌市小学校長会では、築けないのかという意見もあった。
- 21地区ある指定都市校長会の中で、都道府県単位で一緒にやっていく都市が4都市しかなかった。札幌市、東京、大阪市、堺市である。そういった状況の中で、(道小と)今できること、今後一緒に出来ること、違った立場でやらなくてはならないことをもう一度考える必要があるのではないかという意見もあった。

会費の値上げについては、先ほど澤井委員長が述べた通りである。次なる財政危機を回避するためにも、今後を見据えた根本的な組織の在り方及び活動の在り方の検討に踏み込んでいただきたいと考えている。その中で、札幌市校長会として、道小と「一緒に出来ること」と「互いに進めなければならないこと」をもう一度考えていきたい。